

「桜の樹」 ニュースレター vol.54 2026.2

岡倉天心記念
がん哲学外来
巣鴨カフェ「桜」

励ましと共に生きる 岡ちゃん

皆様、寒さが続きますがいかがお過ごしでしょうか。今回は、柴田トヨさん(98歳の詩人)の詩を紹介します。

トヨさんは、明治から平成と激動の時代を生き、2013年に永眠されました。

2010年に出版された詩集「くじけないで」は、世代を超えて多くの人々の共感を呼びました。トヨさんの人柄と心が、スッと胸に沁みる優しい詩を選びました。

朝はくる 柴田トヨ

一人で生きていくと決めた時から

強い女性になったの

でも大勢の人が手をさしのべてくれた

素直に甘えることも 勇気だとわかったわ

(私は不幸せ・・・)

ため息をついている貴方

朝はかならずやってくる

朝陽も射してくる筈よ

「くじけないで」 P82 より引用

日々生きていくことの意味がわからなくなった時、柴田トヨさんの詩は心の礎となり、足元を明るく照らしてくれます。淡々と生きていくことの大切さを、教えてくれているように感じました。



私の世代の代表の2人逝く ニャンコ先生

暮れから今年のスタートは私の世代の活躍した人の訃報でした。12月23日プロゴルファー尾崎将司さんが結腸がんで、1月1日フリーアナウンサー久米宏さんが肺がんで、逝かれました。

尾崎さんは甲子園高校野球優勝校の投手、4番打者として活躍、プロ野球に期待されて入団したが成績が伴わず3年で退団、その間覚えたゴルフに興味を持ち、3年後のプロテスト合格、翌年日本プロで初勝利、以降はご存じの大活躍で、通算優勝回数113回は世界プロツアー最多記録です。また個人競技のゴルフをプロ野球のようにオフシーズンに仲間を集め、一緒に体を鍛え、後進の指導も熱心に行い、世界で活躍する選手を育てました。

久米宏さんは放送局にアナウンサーとして、入局しましたが最初は体調を崩したり大変だったそうです、また当時局ではアナウンサーは報道・情報バラエティー・スポーツと別れ、情報バラエティーに配属、ラジオのレポーターでは永六輔さんに、愛川欽也さんに鍛えられ、「ぴったしカン・カン」では司会として萩本欽一さんにテレビ用と見いだされ、全国的な人気者になりました、入局11年目「ザ・ベストテン」では黒柳徹子さんとの司会がヒットします。翌年局を退職しフリーアナウンサーとして他の番組含めて同局の司会を続けました。フリーになって6年後他局での報道番組「ニュースステーション」に小宮悦子さんとの司会です。報道の番組に出演が初めてにもかかわらず大ヒットしました、それは話術はもちろんですが、どんな国でも民主主義が成立するためには三権分立に加え政権に批判的な役割という報道の独立が重要だと思っていたからだと思います。もし政権が代わり、例えば共産党になったら、アンチ共産党になると言っていたそうです。

2人ともがんで逝きました。優秀なお医者さんがついていたと思いますが寿命かもしれません、ガンは初期であれば怖くないとまで言われています、せめて私はがんカフェで皆さんのお話を伺ながら、「がん防災」という考えと、毎年の検診をお勧めしようと思っています。



岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」

sugamocafe.sakura@gmail.com

<https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来
がん哲学外来市民学会

代表 西原光治
編集 浦川 慶子